

競技要綱

【学生振袖クラシックの部】(美容学校生対象)

(1) 競技種目

ボディを使用し、振袖の着付けと帯結び技術性を競う。

帯結びは花の舞・ファンタジー・花立矢・二枚扇・ふくら雀のいずれかとする。

(2) 競技規定

1. 審査ポイント

トータルビューティな視点からの創造性・調和美を対象とする。

2. 競技時間

事前競技「補正・長襦袢着付」・・・20分（競技会場にて体型補正から長襦袢・着物の衿止めまでを行う）

着付け競技「振袖着付・帯結び」・・・20分（競技会場にて行う）

3. 競技の前準備

① 帯は、てさきを上にして屏風だたみにし、帯に必要な小物類を準備する。

② きものは着る際のたたみ方にし、きものに必要な小物を準備する。

③ ①と②を風呂敷に包み中のものが落ちないように包み、待機する。

4. 競技方法

競技準備は監視員の指示の下、競技会場にてボディに体型補正・長襦袢を着つけ、着物を羽織り衿止めまで行う。次に着付け競技スタートの合図の後、

振袖着付け・帯結びを20分間で行う。

(3) 競技規定にかかわる注意事項 ※違反者は減点もしくは失格となります。

1 選手は、現在美容学校に在学中であること。

2 競技準備と競技に使用する衣裳、下着、小物類一式・風呂敷は各自持参のこと。

またボディは競技会場に設置されたものを使用すること。

・着物・・・振袖（伊達衿使用）

・長襦袢・・・一部式または二部式で白半衿を使用

・帯・・・袋帯（六通または全通）

・和装下着…裾除け肌襦袢またはワンピース式も可

3 選手同士の用具の貸し借りはしないこと。また用具等の忘れ物があっても、大会本部からの貸出しは一切しない。

4 著しく完成された補正用品の使用は禁止。

5 着物ベルトの使用は不可。

6 刺繍半衿の使用は不可。

7 帯や着物に印を書いたり糸印をつけておくことは不可。

8 帯結びの際に完成された器具の使用は不可。

9 おはしよりに半紙又はパネロン及びタオルを使用してもよい。

10 おはしよりの前後衿先はクリップで止めてもよい。

11 仕上りの規定

飾り帯揚げはいりく（おはさみ）に仕上げる。

帯締め結び方は中心で本結びとする。

12 競技中にボディが下がる等トラブルの場合は係員が対応します。

対応時間については考慮されます。

13 助手の同伴は一切認められない。

(4) 当日の注意事項

1 当日の行動は監視員の指示に従うこと。

2 競技中、選手同士または観客と話しをしてはならない。

3 競技中、他の選手に迷惑をかける言動をしたり、監視員の指示に従わない場合は、退場を命じることがある。

4 競技終了後、選手は作品に一切触れてはならない。

5 審査中、ボディの移動については指示された箇所以外に触れてはならない。

6 表彰式の際、受賞者は指定された場所へ移動すること。

7 入賞者は記念撮影をするため表彰式終了後速やかに指定の撮影会場へ作品ボディを持って移動する。

※貴重品の紛失・盗難につきましては、主催者側では責任を負いかねますので各自充分ご注意下さい。

(5) 選手の服装

選手の服装は白の上衣、黒のスラックス。女子は肌色のストッキング、

男子は黒のソックス(素足不可)

靴は脱ぎ履きしやすいものに限る（ピンヒール・サンダル・ブーツ・スニーカー 不可）

(6) 審査事項

大会運営規則に基づき委嘱された審査員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、審査業務を行う。

(7) 監視事項

大会運営規則に基づき委嘱された監視員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、監視業務を行う。

(8) 採点精算

大会運営規則に定められた「職務要綱」に記載する。

(9) 順位決定

順位の決定は審査員の採点の合計点に基づき、実施する。

(10) 表彰

入賞者の数については、出場選手の数に応じて大会委員長が決定する。

(11) コロナ感染防止についての注意事項 別紙参照